



医療法人仁友会 北彩都病院

地域医療連携室 広報誌

第7号 2015年8月

地域医療連携室通信



《残雪のみくりが池（富山県立山にて）》

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 1P 表紙・目次
- 2・3P 泌尿器科癌 診断・治療センター開設のご案内
- 4・5P 北彩都病院 血液浄化療法センター 看護部紹介
- 6・7P 北彩都病院 血液浄化療法センター 血液透析にかかわる臨床工学技士
- 8P 市民講演会報告・職員会活動

◆基本理念◆

患者とともに歩む医療を实践する。
最良の医療と環境を提供する。

◆基本方針◆

- 1) 患者さんの権利を尊重します。
- 2) 医療の質的向上に努め、信頼される病院を目指します。
- 3) 安全で安心して治療と療養が出来るように努めます。
- 4) 専門病院として、医療の発展を通して地域に貢献します。

『泌尿器科癌 診断・治療センター』開設のご案内

北彩都病院 泌尿器科癌 診断・治療センター長
徳光 正行



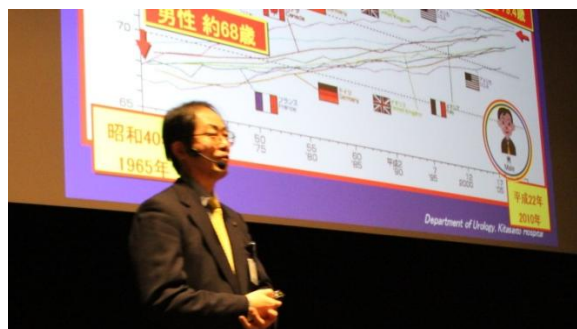
地域医療連携室通信をご覧の皆さん、日頃より大変お世話になっております、泌尿器科の徳光です。今回初めて寄稿させていただきます。

私が北彩都病院に入職したのは、2006年（平成18年）4月。早いもので10年目に入りました。1990年（平成2年）に旭川医大を卒業、1994年（平成6年）に同大学院修了。その後旭川医大に勤務し、旧石田病院や士別市立病院への常勤派遣医も経験いたしました。生まれも育ちも旭川で、今年50歳になりますが、ちょうどその半分に当たる25年の医師生活ほぼ全てにおいて、旭川や道北地域の皆さんと『ご縁』がありましたこと、感慨深く思いながら、本稿を書いております。

皆様ご存知のとおり、当院は泌尿器科、腎臓・透析内科、血管外科の3科が診療にあたっています。さらに、尿路結石破砕、血液浄化、PD（腹膜透析）の3センターが設置され、これらの疾患の治療に対して、特に力を注いでいます。さらにこの4月から、4つ目となる『泌尿器科癌 診断・治療センター』が新設されました。高齢化社会の訪れとともに、国民の半分が何らかの癌にかかる状況であることや、今から2020年には、男性の癌罹患率第一位は前立腺癌となることから、これら増加の一途をたどっている泌尿器科癌に対する診療を、皆さんのご期待に十分に答えられるよう、これまで以上に強化することがその目的です。

その柱は3つ。1つ目は、旭川および道北地域にお住まいの皆さんへの、癌関連疾患に対する市民講演会などを通じた情報発信・啓蒙活動を強化すること。2つ目は、ドックや500円玉ワンコイン検診などによる癌の早期発見手段を提供し、同時に最新生検法や新規治療薬を導入して最新・最善の癌治療をこれまで以上に実践すること。3つ目は、現在私たちが使用している高性能CT装置に加えて、年内にMRI装置を設置する予定となっており、それらを駆使した癌の早期診断能力をさらに向上させることです。絵に描いた餅となることの多い選挙公約のように聞こえるかもしれませんが、この公約は『きっちり』と実現していきます！

その第一弾として、さる7月5日（日）、イオンシネマ旭川駅前スクリーン8を借り切り、第30回記念の北彩都病院市民講演会と泌尿器科癌診断・治療センター開設記念を兼ねた、『あさひかわ市民講演会2015』を開催しました。多数の方々の前での講演はいつも行っていて慣れていま



すが、映画館での医療講演会は国内でも例がなく、告知期間も1カ月、事前予約なしでの開催でしたので、全163席の会場に閑古鳥が鳴いてしまわないか…久々のドキドキ感を味わいました。幸い9時半の受け付け開始時には約30名の行列が！最終的に146名のご参加を頂き、心からホッとしました。講演会は前後半、各40分の二部構成。前半は日本人の癌全般について、後半は私の専門である前立腺癌についてお話ししました。従来の市民講演会とはちょっと趣向を変え、私からの一方的なお話ではなく、会場の皆さんにも挙手アンケートをとりながらの双方向性の講演を行いました。約7割の方が私と初対面、また約8割の方は、これまで他の講演会に出席されたことがあるという目の肥えた皆さんでしたが、終了後のアンケートなどで、「わかりやすく勉強になった」「時間があっという間に過ぎた」「癌の話なのに楽しく聞けた」などのお言葉を頂き、企画から講演まで行ってきた甲斐があったと心から嬉しく思いました。北海道新聞紙上では2回、9年前から隔月で連載しているメディアあさひかわでも連載50回記念の記事として取り上げられ、啓蒙活動の効果が早速みられています。さらに8月末には、旭川ケーブルテレビの『元気のみカタ、教えて！ドクター』でも、前立腺癌関連番組を放映する予定で、先日収録を終えたところです。



また、前立腺癌早期発見のための『PSA住民検診』が、旭川では残念ながら実施されていないことを受けて、この8月から、500円玉1個で、1時間以内に結果がわかる『PSAワンコイン検診』を開始いたしました。ぜひご利用ください。さらにこのワンコイン検診を、腎や肝機能、糖尿病検査などにも広げて、皆さんの様々な病気の早期発見にお役立て頂けるように、検討をすすめています。

常に最新の情報や医療を、皆さんにどんどんお届けして行きたいと考えています。どうぞこれからも、宜しくお願ひいたします！



ワンコイン検診のご案内



**当院では、前立腺がんの早期発見のため、PSAワンコイン検診をはじめました。
手軽に受けてみませんか？**

◆PSA検診とは・・・

PSA検査（血液検査）による前立腺がんのスクリーニングです。事前申し込み不要です。直接受付窓口へお越しください。料金は**500円(税込)**です。受付・会計・検査で約15分となります。

◆結果（報告書）の受け取り方

郵送の場合 ： 当日又は翌日の発送になります。

当日受け取りの場合 ： 約1時間の待ち時間でお渡しできます。

※検査時間が16時以降の場合は翌日に、金曜日・祝前日の16時以降の検査の場合は休み明けの結果報告になります。

◆受付日時

祝日を除く月～金（8時30分～16時）

北彩都病院 『血液浄化療法センター』

看護部紹介

看護師長 高橋 広美



<看護部スタッフ数>

看護師 24 名 准看護師 10 名 看護助手 6 名

他、育児休暇中の看護師 3 名が在籍しています。

部署目標

- ✿ 透析看護の知識・技術の向上に努め、個別性のある看護援助を行う
- ✿ 感染対策を強化し、安全な透析環境を提供する

<透析ベッド数> 115 床

<透析患者数> 約 330 名 (HHD 1 名)

<透析スケジュール>

月水金/午前・午後・夜間

火木土/午前・午後

血液浄化療法センターは、3F ワンフロアーを第1浄化室 (46 床)、第2浄化室 (32 床、処置室 1 床)、第3浄化室 (36 床) に分けフロア単位で管理しています。

当血液浄化療法センターでは、2011 年 9 月からチームプライマリー制を導入し、医師・看護師・臨床工学技士・薬剤師・管理栄養士がチームを組み、患者の QOL の維持・向上を目指して個別性を重視したチーム医療を行っています。

チームにおける看護師の役割は、家族を含めた患者の全体像の把握と患者教育及び透析全般にわたる情報提供を行うことです。

毎年掲げるスローガン（2015年度は「Challenge for Change(変革への挑戦)」～新しいことにチャレンジし続けること～）のもと、透析看護の質・技術の向上から業務改善まで、チャレンジ精神を持ち幅広く取り組んでいます。

新たな取り組みとして、よりよい血液浄化療法センターを目指し、患者満足度調査と浄化室で発生している苦情・クレーム及び潜在する苦情・クレーム調査を行っています。苦情・クレームの捉え方は個人差があり、自己処理で済ませているケースもあることから対応したスタッフが調査票を記入し、起きた事例の情報をスタッフ間で共有しています。

今後は、発生及び再発防止策を構築し、血液浄化療法センターにおける苦情・クレーム対応マニュアルの作成を計画しています。愁訴のない透析・辛い透析医療を提供できるよう看護師個々が常にスキルアップを心がけ、透析看護の質を追求し、他職種との連携を密に取りながらチームプライマリーのキーパーソンとして、よりよい医療と快適な透析環境を提供していきたいと思えます。



カンファレンス(週2回(月・金))

医師・看護師・臨床工学技士・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・MSWが参加しています。

看護師の役割は・・・

患者の状態を把握し、他職種への情報伝達とカンファレンスで決定された治療方針を各フロアスタッフにフィードバックすることです。

全体像把握のための1つのツールとして、年2回の愛Pod調査を行っています。自覚症状調査シートから患者の愁訴を把握し、看護介入へ繋がっています。

調査結果はコメントを入れ、患者個々にフィードバックしています。

愛Pod調査の流れ

- スクリーニング
 - 血液透析患者に調査用紙を配布(年2回)
 - 自己記入形式
 - 家族またはスタッフによる聞き取りも可
- アセスメント
 - 各項目0~4点の5段階評価
 - 点数が低いほど愁訴が少ない
 - 合計点最高点 0点×19問=0点
 - 合計点最低点 4点×19問=76点
 - 全患者へ対策やコメントを記入した調査結果をフィードバックする
- 治療介入
 - 介入対象患者
 - > 3点以上の症状を有する患者(かゆみは2点以上)
 - > 合計30点以上の患者
 - 全患者へ対策やコメントを記入した調査結果をフィードバックする
- 再評価
 - 前回の調査結果と比較し、介入効果を評価する

Pod 透析治療に関する自覚症状調査シート ver3.0

名前: _____ 記入日: 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

該当する顔マークの下の数字に○をつけてください。

普段の気になる様子について教えてください

1. 関節痛(手首、肩、膝、腰などの痛み)はありますか?

0 1 2 3 4

まったくない ← 強くある →

2. かゆみはありますか?

愛Pod調査



訪問勉強会

訪問勉強会にて地域に向けた活動も行っています。

一人でも多くの介護施設職員の方に透析患者を理解して頂くことを目的としています

- ・腎不全について・・・
- ・血液透析療法について・・・
- ・食事制限について・・・ など

北彩都病院 『血液浄化療法センター』

血液透析にかかわる臨床工学技士

診療技術部部長 臨床工学科 石川 幸広

臨床工学技士は医療機器の専門医療職です。病院内で、医師・看護師や各種の医療技術者とチームを組んで生命維持管理装置の操作などを担当しています。また、医療機器が何時でも安心して使用できるように保守・点検を行っており、安全性確保と有効性維持に貢献しています。代表的な業務としては、呼吸治療業務、人工心肺業務、血液浄化業務、手術室業務、集中治療業務、心血管カテーテル業務、高気圧酸素業務、ペースメーカー/植込み型除細動器業務、医療機器管理業務となっています。今回はこれらの業務の中で、北彩都病院において血液浄化業務の一つである透析にかかわる臨床工学技士をご紹介します。

現在、北彩都病院には16名の臨床工学技士が在籍しており、透析室の運営においてもチームの一員として貢献しています。現在、日本の慢性透析患者数は約32万人おり、北海道には約15,000人、旭川には約1,200人、北彩都病院には約372人（内訳：血液透析患者319人、腹膜透析単独者42人、血液透析・腹膜透析併用11人）、仁友会としては520人（旭川市において約43%）の透析患者さんが在籍しています。図1に示しましたのは北彩都病院における血液透析患者在籍数の推移をグラフに表したものです。

我々、臨床工学技士はこれらの情報を把握しながら透析室運営の一翼を担い、透析患者さんへ、最良の透析環境・体制を提供できるよう、業務にあたっています。

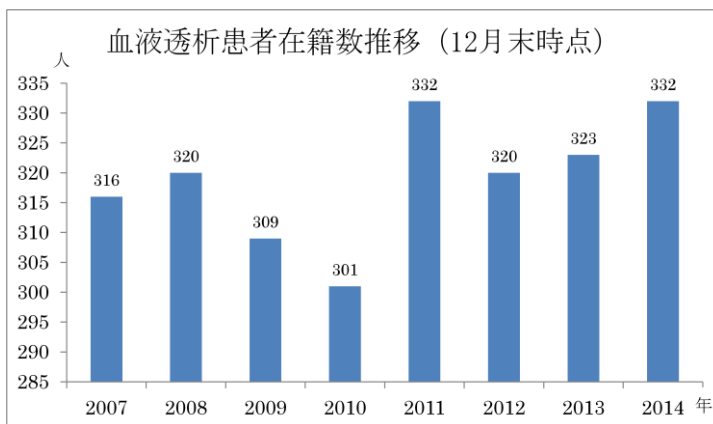


図1

また、昨今は高度な医療技術の進歩に伴い、透析分野においても医療機器の高度化・複雑化・自動化が一層進んでおり、このような生命維持管理装置の操作及び保守点検（左写真1、右写真2）を行って安全な透析治療ができるように貢献するとともに、治療データをもとに透析条件の検討や臨床研究なども行い、透析治療の質向上を目指しています。

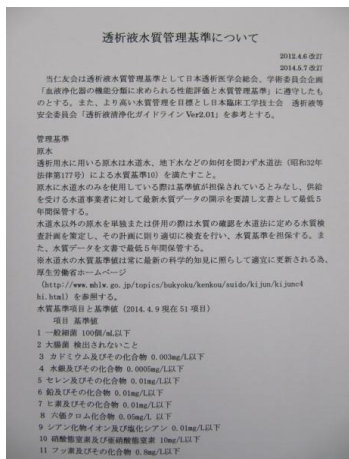


透析用装置の保守点検（左写真1）



透析用装置の部品交換（右写真2）

近年においては医学上安全かつ清潔な透析液を提供することの重要性が求められており、法的規制のもと透析液を管理する上でもマニュアル（写真3）を作成して実務的業務を担っています。透析療法に用いる透析用水・透析液に関し、化学物質の汚染、生物学的汚染がなく、且つ安全に治療ができるように清浄化を図っております。



北彩都病院透析液水質基準マニュアル（写真3）



血液吸着器を併用した治療モード（写真4）

この他にも安定した透析治療や合併症の予防に向けて透析剤（酢酸含有、無酢酸）の選定やオンラインHDF・血液吸着器使用（写真4）などの治療モードの選択を提案し、透析患者さんに、より安楽な生活を送って頂くために日々研鑽を重ねています。これからも我々、臨床工学技士一同を宜しくお願いいたします。



臨床工学技士業務の一つである穿刺



臨床工学技士スタッフ計16名

* 臨床工学技士について

- ・ 1987年5月に制定された「臨床工学技士法※」に基づく医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格です。（※公布 昭和62年6月2日、施行 昭和63年4月1日）
- ・ 医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする医療機器の専門医療職種です。
- ・ 医師をはじめ、看護師などと共に医療機器を用いたチーム医療の一員として生命維持をサポートしています。

市民講演会報告・職員会活動

第29回医療法人仁友会 北彩都病院 市民講演会

去る2015年4月26日(日)10時～12時 当病院6階ホールにおいて開催されました。




『結石はどうしてできるの？
～尿路結石とメタボの意外な関係～』
北彩都病院副院長 泌尿器科医師
山口 聡先生



『体力低下を防ごう
～誰でもできる運動療法～』
北彩都病院 理学療法士
小倉 早紀先生

職員会活動



野球観戦！ 



職員会ボーリング大会！



良い汗かいた後の焼き肉は格別です！ 

発行 (医) 仁友会 北彩都病院
地域医療連携室内
広報誌「地域医療連携室通信」編集事務局

〒070-0030 旭川市宮下通9丁目2番1号
電話 0166-26-6411 (代)
FAX 0166-26-6417 (直通)
お気軽にお問い合わせください